



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.95
2018年 6月号

公益財団法人
School Aid Japan
〒144-0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL: 03-5737-2773
FAX: 03-5737-2793
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

作付け準備開始!

皆さんこんにちは。いよいよ今月からレモングラス、オクラの作付けを開始します。5月は畑の準備で大忙しでしたが、6月は作付けで大忙しです。農場の周りでは田植えが始まり、青々とした風景が広がっています。今月は6月に行われた有機 JAS 検査やそれぞれの作物について報告したいと思います。



レモングラスの株を根っこごと掘り返す様子

◇レモングラス作付け開始

6月レモングラスの定植を開始しました。今年は4枚の畑合計1.4haの畑に定植します。レモングラスの苗は畑に生えているレモングラスの株から作ります。鍬でレモングラスの株を根っこから引き抜き、たくさんの株がくっついている根っこを作業場に持ち帰り、株ごとに手で分けます。1つの株からは30~40株の苗が取ることができます。1haの畑にはおよそ75,000株の苗が必要になるため、今年は105,000株の苗を作る必要があります。新しい契約生産者の苗も作る必要があるため、6月一杯まではレモングラスを畑から引き抜き苗を作る作業が続きます。

◇有機 JAS 検査

6月SAJFarmに日本から有機 JAS 検査員の方が来られました。SAJFarmでは、毎年日本から検査員方を呼んで有機 JAS 検査を受けています。カンボジアにも有機認証はありますが、カンボジアと日本の間で同等性が確保できていないため、カンボジアの有機農産物を、日本で有機農産物として販売することはできません。検査は1日行われ、畑を1つ1つ歩いて周って確認し、出荷した野菜の納品書や日報などから農産物がしっかり有機的な管理を受けてきたか書類、データでも確認します。今年の JAS 検査も何とかクリアし、有機認証を引き続き取得することができそうです。



有機 JAS 検査畑視察の様子



新しく加わった現地女性スタッフ 4 名

◇新規現地スタッフ採用

6月から新たに女性地元スタッフを4名採用しました。名前はニエイさん、ロンさん、ソンサさん、コンさん。全員スタッフリーダーのチャンダーさんの近くに住む方々で、ニエイさんは1年前からレモングラスの契約栽培をしてくれています。4人とも結婚されて子供も大きくなっている為、家事は子供たちに任せて働く場所を探しておられました。カンボジアでは工場の建設が急速に広がっていますが、地方の農村部ではまだまだ働く場所が不足しており、今回の採用の募集を行った際も農場で働きたい方がたくさん農場に来られました。カンボジアの人口の増加に雇用が追いついていない現状を、ほんの一部にすぎませんが解消できるようにレモングラスの栽培を広げてゆきたいです。



レモングラス定植の様子

◇新規契約農家加入

今月から新たに2件の契約農家が加入しました。ロティさんとリアップさんの2名です。ロティさんは契約農家のトオンさんの甥にあたり、家も畑もトオンさんの家の近くにありますが、ロティさんは200~300羽の養鶏を営んでおり、3か月に一度成長した鶏を売って生活費を稼いでいます。リアップさんはチャンダーさんの奥さんの兄弟で、家はチャンダーさんの家から500mほど離れたところにあります。雑貨や飲食品を販売して生計をたてられています。今月は講習会も兼ねて、2人の畑にレモングラスの定植を行いました。契約農家を増やすことでさらに、レモングラスの栽培が広がっていくことを願っています。



オクラの苗を定植する様子

◇オクラ定植

先月播種したオクラの苗が大きくなったので、オクラの苗を畑に定植しました。オクラは2mぐらいの大きさに成長し大きく葉も伸長するので収穫がしやすいよう1mずつ広めに間隔を開けて定植します。今回は大雨が降った後の為、土がぬかるみ定植作業が大変でした。しかし雨が降った後のほうが根が土に伸長しやすく苗が土に活着しやすくなります。定植を終えた後は、時々管理機や鋤を使って除草を兼ねて苗と苗の間を耕します。耕すことで土の中に隙間ができ、苗が根を伸ばす手助けをしてやります。このまま順調に生育すれば、早ければ来月にもオクラの収穫が可能になると思います。